１学期定期試験で全教科１００点満点を取るには

―目標を決めることが不可欠―

開倫塾
塾長 林　明夫

Q：１学期の定期試験対策はどうしたらよいですか。

A：（林明夫、以下省略）「目標なくして成果なし」。一番大切なのは、この教科は 100 点を取るぞと決めることです。また、教科ごとに、何点取るぞと目標をはっきり決めることです。ノートに目標とする点数を書きましょう。中３生や高校生は、全教科の目標点数を紙に書き、机の上に貼り付けましょう。

Q：目標を決めたら、次はどうしたらよいのですか。

A：試験には何が出るかわかりません。そこで、教科書、問題集、教材、授業ノートの４つについて、定期試験の範囲の内容を「スミからスミまで、一語残さず、よく理解した上で、ひたすら覚える。身に着ける」ことが大切です。

Q：ひたすら暗記すればよいのですね。

A：違います。覚える前に「理解」することが大切です。十分に理解していないことを覚えても、試験が終わればすぐに忘れてしまいます。塾生の皆様は、貴重な時間を定期試験の勉強に充てるのですから、十分に「理解」した上で身に着ける努力をして頂きたいと希望します。

Q：では、お聞きします。「理解」とは何ですか。「理解」するためにはどうしたらよいのですか。

A：「理解」とは、今学んでいることがどのようなことかが、うんなるほどとよくわかること、腑に落ちることです。「ものごとの本質」とは何かを知ること、とも言えます。

そのためには、学校や開倫塾の先生の授業を、手を机の上に置き、先生の目をよく見て、大切なことはメモを取りながら真剣にお聴きすることが第一。

教科書、教材、授業ノートを、一語一句おろそかにしないでよく読むこと。読んでいてわからないことばがあったら、辞書や用語集、学年別参考書を用いて調べること。調べたことはノートに書き写し、その場で覚えること。これが第二。

計算や問題は、まずは自分の力でノートに解くこと。よくわからない計算や問題は、授業中の先生のお話をよくお聴きし、なぜそのような答えになるのかを「理解」すること。解答や解説は、一語一語ていねいに読み、なぜこのような答えになるのかの「理解」に努め、ノートに書き写すこと。これが第三。

このようにして、まずは「スミからスミまで」「理解」してくださいね。

Q：「理解」したあとはどうすればよいのですか。

Ａ：開倫塾では、「一度理解したことを、スミからスミまで正確に身に着けること」を「定着」と言います。「定着」に抜群の効果があるのが「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」です。開倫塾では、これらを「定着のための三大練習」と呼んで、塾生の皆様におすすめしています。

「練習は不可能を可能にする」という教えがあります。「定着のための三大練習」を積み重ねると、「一度理解したことを、スミからスミまで身に着けること」が可能になり、定期試験で 100 点満点を取ることができます。「定着のための三大練習は定期試験で 100 点満点を可能にします」。

Q：音読練習とは何ですか。

Ａ：「音読練習」とは、「一度理解したことを、スラスラとよく読めるようになるまで声を出して繰り返し読むこと」です。「暗唱（あんしょう）」、つまり何も見ないで言えるまでにすることです。音読練習の目標は、①英語の教科書の本文や重要語句、②数学の定理・公式、③理科の原理・法則、ものの名前、④社会の地名、歴史上の出来事、重要条文、⑤国語の名作の最初の数行、漢字などを「声を出して読んで、読んで、読みまくる」が、音読練習のコツです。今まで音読練習をしていなかった人は、これだけでもよい点数が取れますよ。

Q：書き取り練習とは何ですか。

Ａ：「書き取り練習」とは、「音読練習をして、スラスラと読めるようになった内容を、楷書（教科書の書体）で、書き順も含めて正確に書けるようになるまで繰り返し書く練習をすること」です。書き取り練習の目標は、「暗写（あんしゃ）」、つまり何も見ないで書けるまでにすることです。

字はできるだけ美しく書けたほうがよいですが､書き取り練習中はそうも言っていられませんね。「書いて、書いて、書きまくる」が、書き取り練習のコツです。今まで書き取り練習をしていなかった人は、「暗写」ができるまで練習をすれば一気に点数が上がります。

Q：「計算・問題練習」とは何ですか。

Ａ：開倫塾では、「計算・問題練習」を「計算・ポチ・問題練習」と呼びます。計算・問題練習とは、「なぜそのような解き方をするのか、なぜそのような解答になるのかをよく理解した計算や問題について、見た瞬間にパッパッパッと条件反射で正解が出てくるまで繰り返し解く練習をすること」です。

試験では条件反射で短時間に正解を出せる計算や問題が多ければ多いほど、応用問題を解くのに時間を使うことができます。

この 3 つの練習で、学校の定期試験では全教科とも 100 点満点が取れます。

Q：学校の勉強は役に立つのですか。また、定期試験の勉強にはどんな意味があるのですか。

Ａ：最初の疑問に答えますと、塾生の皆様が今学校で行っている全教科の勉強は、すべて役に立ちます。では、どこで役に立つのか。学校の全教科の勉強は積み重ねでできていますので、小学校で学んだことは中学校で、中学校で学んだことは高校で、高校で学んでことは大学や短期大学、専門学校、専修学校で、大学で学んだことは大学院で役に立ちます。そして、これらの学校で学んだことは、すべて社会で役に立ちます。

学校での勉強はすべて役に立つからこそ、国や地方自治体（県や市町村）は、国民からの貴重な税金を教育に用いているのです。保護者の皆様も教育費用を支払っておられるのです。

学校の定期試験にはどのような意味があるのか。定期試験を活用して、それまでに学んだことをもう一度学び直し、十分に「理解」して「定着」させ、次の学習内容に進むために行うという意味があります。新しいことを 100%「理解」するには、それまでに学んだことを 100%「理解」して身に着けることがとても役に立ちます。

Q：最後に一言どうぞ。

A　学校の定期試験を含め、すべての試験を受けるときに大切なのは何か。「自己責任」「自助努力」「あきらめたらおしまい」という基本的な「生き方」「態度」です。「自分の未来は自分で切り開く」ために、がんばって定期試験にチャレンジしてください。

2016 年 5 月 3 日(火)憲法記念日、10 時 05 分記

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)